

# 5Gが盲導犬に取って代わる！

提案者名

赤尾 勝久

連絡先

akao.k@tku.co.jp

## 5Gが盲導犬に取って代わる！

視覚障害者（ターゲット）の単独歩行を安全に実現する提案です。眼鏡タイプのウェアラブルカメラを装着したユーザは、カメラで撮った高精細なリアルタイム動画をサポートセンターへ送り、センターのオペレータは送られてきた画像を基に、音声によるコミュニケーションを取りながらユーザを目的地まで誘導します。盲導犬の不足は熊本だけではなく、我が国全体の課題です。盲導犬の育成が非常に難しいことが理由ですが、5Gの活用により盲導犬の不足問題は直ぐに解決されます。

## 視覚障害者にとって単独歩行・移動は極めて困難で常に危険と直面・・・5Gが安全を担保

視覚障害者にとって単独歩行・移動は極めて困難で常に危険と直面しています。既存のモバイル通信技術では、伝送容量や遅延の特性からユーザを安全に目的地まで誘導することは出来ません。5Gの高速通信・超低遅延という特徴を活かしてこそこの提案であり、信頼性が高い5Gだから実現できます。

## 「健康的な散策を実現」・「アクセシビリティの飛躍的向上」

非常災害発生時の利用は勿論、何よりも平時の健康的な散策を実現できます！  
点字表記や読み上げ機能の無い機器やリモコンの操作も支援できるため、ユーザのアクセシビリティの飛躍的な向上と、更に職業支援としての広がりも期待できます。

## 訓練を必要としないため直ぐに利用可能

使用に当たっては特別な訓練を必要としないため、病気や事故による中途失明のターゲットでも直ぐに利用できます。

## つぶさな情報でサポート・地域外での使用も可

僅かな段差・階段・エスカレータ、バスや電車などのステップの状況についてもつぶさにユーザへ伝えることが出来ます。ユーザのGPS位置情報と地図データを組み合わせたシステムとの併用により、ユーザやオペレータにとって初めての目的地や地域外での使用にも対応可能です。そのためセンター構築は地域を選ばず在宅オペレータによるテレワーク事業も視野に入れることが出来ます。

